



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)
中国製監視カメラで見張られている日本人

2023/04/12

東住吉キリスト教会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。先日、私は非常に気になる論文を読みました。
『国内の監視カメラが中国製でいいんですか』というタイトルで、書いたのは現役の衆議院議員 和田義明（わだ よしあき）さんです。

日本国内では今、約 500 万台の防犯カメラが作動中で、その大半は民間のものです。警察のものではありません。民間のどんな人たちが監視カメラ・防犯カメラを付けるのでしょうか。例えば、ビルのオーナー・施設管理者・持ち家のオーナーたちは、近所で何か変なことが起こらないように、防犯のために設置します。

民間の人たちがカメラを導入する時、何を基準に採用するでしょう。値段と性能ですよ。安けりゃ安いほどいい。性能は、より優れていることに越したことはない。安くて非常に高度な性能を持っているカメラというと、中国製が群を抜いて優れてるんですね。「でも、そんなこと放置していいんですか」という問題提起の論文です。

なぜ、そのことについて問題意識を持っておられるのか。
中国製の監視カメラは、単に映像記録だけではないんですね。それに通信機能が付加され、人工知能機能が付加され、顔認証機能が付加されているために、ある特定の人物を、どこまで逃げたとしても、カメラの目が届く限り、様々なカメラと連携して追跡し続けることができる。地の果てまでとことん追跡できるようなシステムを作ることができるんですね。それを現に国内でやっているのが中国です。

中国の 4 つの企業が有名です。
①世界シェアナンバーワンはハイクビジョン（HIKVISION／杭州海康威視数字技術）。これは日本の中でもナンバーワンですよ。ハイクビジョンのカメラは、単に映像として記録するだけではありません。例えば、新疆ウイグル自治区では多くのウイグル人が思想改造所に閉じ込められています。このカメラにはウイグル人認証機能が設置されていて、その町全体を監視しています。

②世界シェアナンバー 2 はダーファ・テクノロジー（Dahua Technology／浙江大華技術）。ここも、ウイグル人が通過するとアラームを発生するような機能付きカメラを出しています。ウイグル人に対してそれができるなら、もちろん他の民族にも可能なんですね。

③監視カメラに搭載する人工知能を開発しているベンチャー企業のセンスタイム（SenseTime/商湯科技開発有限公司）。

ここの株式の 15.99%を持っているのは日本の会社です。どこだと思いませんか。ソフトバンクですよ。ソフトバンクの子会社の日本コンピュータービジョンが代理店をやっていて、セnstタイムの人工知能付き監視カメラを売っています。どこに売っているかという、皆さんの近くにもあるんじゃないですか。イオンモール。映画館の東宝シネマズ。もちろんソフトバンクのお店。これらには、セnstタイムの人工知能付きカメラが導入されています。

因みに、セnstタイム日本法人代表取締役の勞世竝（ろう せいこう）氏は日本企業のオムロンに 20 年勤務していた方です。日本企業のような、或いはその繋がりを活かして、日本企業の中にドンドン広がっているのです。

④顔認証の非常に優れた技術を持っているメグビー（MEGVII/曠視科技）。映った人間が誰なのかを特定する技術ですね。

これら 4 つの会社が、ほぼほぼすべての防犯監視カメラのシェアを握っていると言ってもいいのですが、中国では、このカメラ情報に個人の行動パターンや思想信条・購買履歴・収入など、すべての個人情報をデータベース化してるんです。このデータベースに基いて社会信用スコアを付与します。この人物は中国共産党にとって貢献できる人物だとなると、社会信用スコアが上がって行き、様々な特典があります。

しかし、SNS で中国共産党の悪口を言ったり、習近平に批判的な行動を取っているのをカメラに撮られたりすると、スコアが落ちます。限りなく落ちてスコアがゼロになると、電子決済ができなくなる。つまり、中国国内で経済活動ができない。売り買いができなくなるんですね。

ところで、このカメラは世界中に売られていますが、アメリカでは 2016 年に、アメリカの財界公館を含むすべての公館・政府関係の施設で、中国製カメラを撤去することが決まりました。もう無いんです。2019 年には、政府調達のリストにマークされている企業のものは採用できないように取り決められました。

アメリカはなぜ、中国製カメラを目の敵にしてピリピリしているのでしょうか。アメリカ製のカメラが売れなくなるからでしょうか。そうではありません。中国製カメラで収集された様々なデータは、中国本国の当局に送り込まれている可能性が言われているのです。

つまり、中国当局は自分の国にしながら、中国製カメラを通して外国のすべての国民・すべての人類の動向・情報を集め、ビッグデータにすることができる。そしてある時には、特定の人物を追跡することも可能になる…のではないか。そのような行動を取っている…のではないか。それが技術的に可能になっていることに対して、先手を打ったんですね。

新約聖書の預言書にヨハネの黙示録があります。

そこには、やがて**反キリスト**と言われる独裁者が登場し、地上のすべての人間をコントロールすることが書かれています。そんな一人の人間が80億や90億の人間をコントロールしたり、監視したりするなんて夢物語、不可能などと言われていたのですが、テクノロジーの進歩によってそれが可能となっています。

実際中国では、15億の人間に対してそれを行っているんですね。

15億で可能ならば、80億も理論上可能じゃないんですか。

誤解のないように申し上げますが、私は**黙示録**に登場する独裁者／反キリストが習近平だとは、ひと言も言ってません。

やがて登場する反キリストは習近平ではありません。

聖書預言によると、反キリストは漢民族ではなくローマ民族／ローマの末裔から出て来ます。習近平は漢民族なので反キリストではない。

ただ、今中国が活用している技術を使えば、黙示録的世界が今すぐにでも実現できることを申し上げたいのです。すなわち、私たちは**黙示録**が語っている**艱難時代**に、非常に近い時代に生かされているのではないかと言えるのです。

私は今すぐ日本政府にしていただきたいことが、またハッキリしました。

今すぐ日本の、特に政府に関連する施設や公共機関から、例えば空港から、中国製監視カメラを全撤去することを国家の意志として、法律として定めてもらいたい。

私は、中国当局者によって私自身の人生が監視されるというのは真っ平だ、と考えています。

聖書預言に照らしていくと、今の時代に非常に関連していることがまだまだあるので、またごうちゃんねるで紹介していきたいと思います。

チャンネル登録もお願いします。ではまたごうちゃんねるでお会いしましょう。

皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！